

統計トピックスNo. 110

統計からみたサッカーの状況

— 「2018FIFA ワールドカップ」にちなんで—

(社会生活基本調査の結果から)

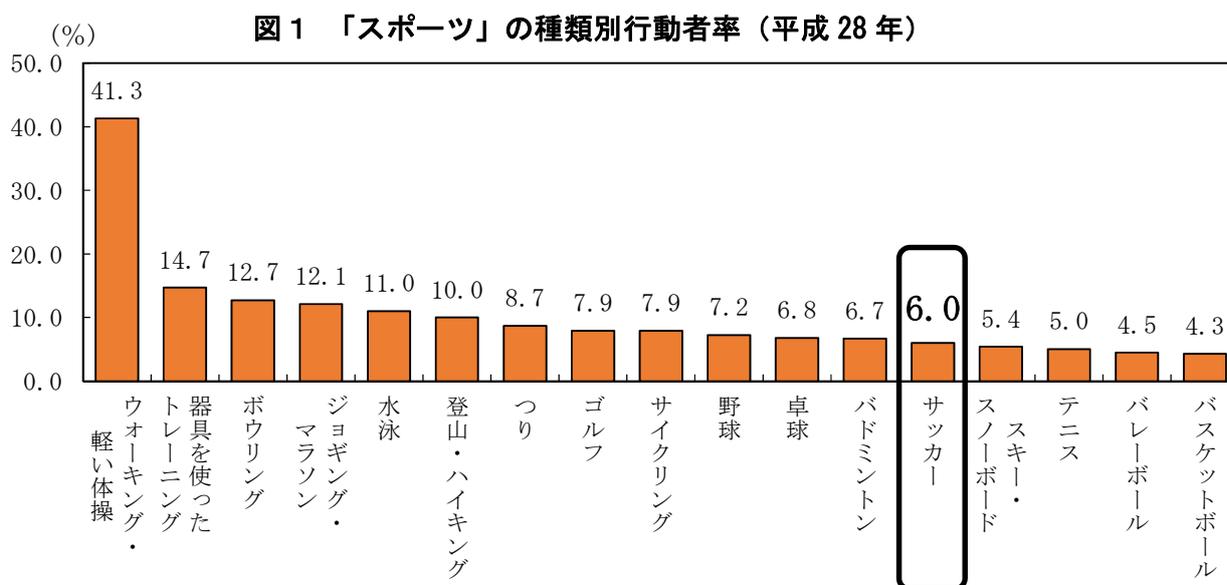
本年6月14日から7月15日にかけて「2018FIFAワールドカップ」がロシアで開催されます。そこで、昨年公表した平成28年社会生活基本調査生活行動に関する結果から、我が国のサッカーを行った人の状況について紹介します。

【用語】行動者率…10歳以上人口に占める過去1年間（平成27年10月20日～平成28年10月19日）に該当する種類の活動を行った人の割合（%）

1 スポーツ全体からみて

「サッカー」の行動者率は6.0%

「スポーツ」の種類別行動者率をみると、「サッカー」は6.0%となっています。（図1）



※行動者率が3%以上の種類を表章

注) 「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、児童・生徒・学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

10～14歳の行動者率は26.4%で4人に1人がサッカーを行う一方、35歳以上では2.4%

「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、「サッカー」の行動者率は10～14歳が最も高く、26.4%とおおよそ4人に1人がサッカーを行ったといえます。行動者率は、年齢階級が高くなるにつれて低くなり、35歳以上では2.4%となっています。(表1)

表1 「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率—上位10種類— (平成28年)

(%)

10～14歳			15～19歳			20～24歳		
順位	種類	行動者率	順位	種類	行動者率	順位	種類	行動者率
1	水泳	44.3	1	ウォーキング・軽い体操	28.0	1	ウォーキング・軽い体操	34.5
2	ジョギング・マラソン	29.5	2	ジョギング・マラソン	27.3	2	ボウリング	33.6
3	ボウリング	27.3	3	ボウリング	25.2	3	ジョギング・マラソン	23.0
4	サッカー	26.4	4	バスケットボール	21.6	4	器具を使ったトレーニング	21.6
4	ウォーキング・軽い体操	26.4	5	器具を使ったトレーニング	20.5	5	野球	15.8
6	バドミントン	26.1	6	サッカー	19.8	6	サッカー	14.7
7	野球	24.0	7	バドミントン	19.4	7	卓球	14.5
8	卓球	23.3	8	野球	18.2	8	バドミントン	13.7
9	バスケットボール	23.2	9	バレーボール	17.9	8	スキー・スノーボード	13.7
10	つり	17.1	10	卓球	17.3	10	水泳	12.8

(%)

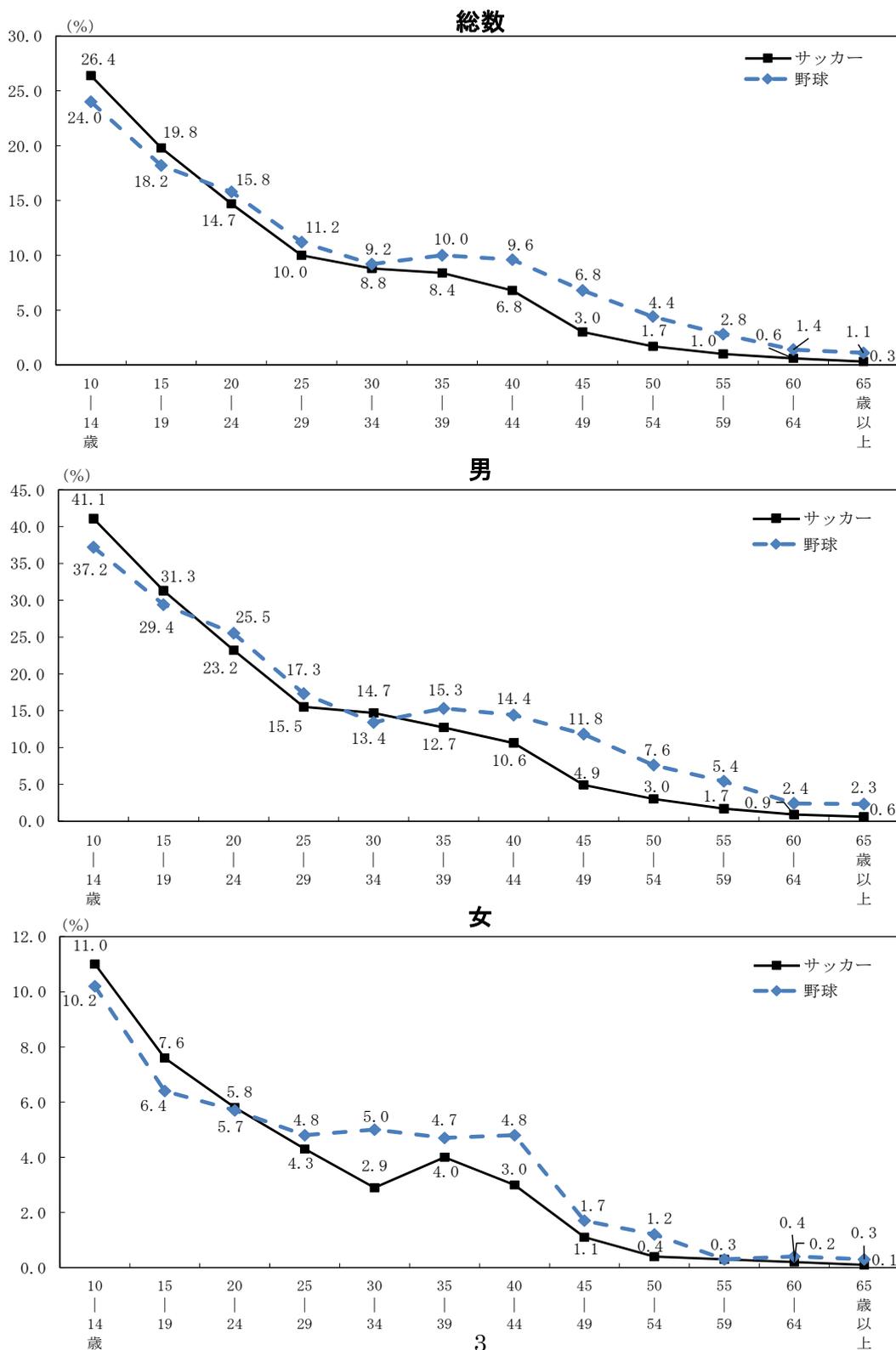
25～29歳			30～34歳			35歳以上		
順位	種類	行動者率	順位	種類	行動者率	順位	種類	行動者率
1	ウォーキング・軽い体操	39.4	1	ウォーキング・軽い体操	38.1	1	ウォーキング・軽い体操	44.2
2	ボウリング	23.3	2	ジョギング・マラソン	17.8	2	器具を使ったトレーニング	13.5
3	ジョギング・マラソン	21.1	3	器具を使ったトレーニング	16.4	3	登山・ハイキング	10.0
4	器具を使ったトレーニング	19.5	4	ボウリング	16.1	4	ゴルフ	8.5
5	登山・ハイキング	11.5	5	水泳	13.4	5	ボウリング	8.1
6	野球	11.2	6	つり	10.9	6	水泳	8.0
7	スキー・スノーボード	11.1	7	登山・ハイキング	10.0	7	ジョギング・マラソン	7.8
8	水泳	10.9	8	野球	9.2	8	つり	7.7
9	サッカー	10.0	9	ゴルフ	9.1	9	サイクリング	6.8
10	つり	9.7	10	サッカー	8.8	10	野球	4.1
10	サイクリング	9.7				10	卓球	4.1
						15	サッカー	2.4

2 野球と比較して

10歳代では「サッカー」、20歳代以降では「野球」の行動者率が高い

「サッカー」の行動者率を年齢階級別に「野球」と比べてみると、男女総数について10歳代では「サッカー」の行動者率が「野球」よりも高くなっていますが、20歳代以降では「野球」が「サッカー」よりも高くなっています。また、「サッカー」は年齢階級が高くなるにつれて低くなりますが、「野球」は同様に30～34歳まで低くなった後、40～44歳までほぼ横ばいとなっています。(図2)

図2 「サッカー」、「野球」の男女、年齢階級別行動者率(平成28年)

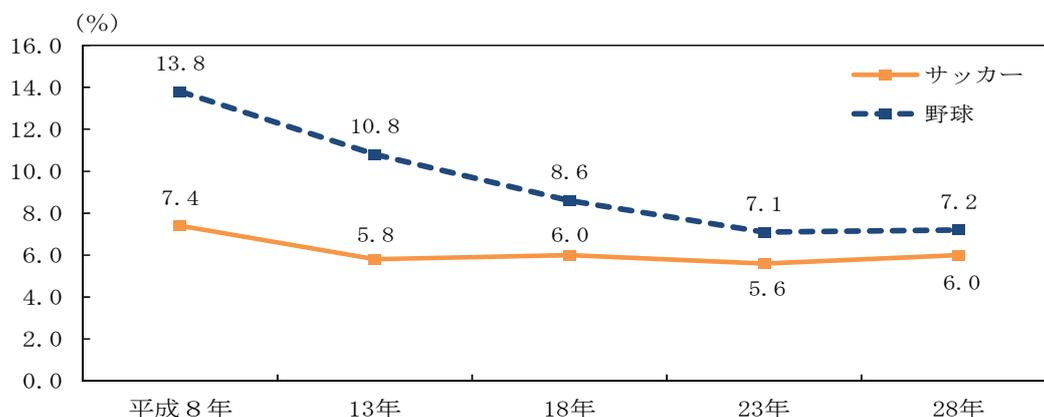


過去20年間で行動者率の差は縮小

過去20年間の行動者率の推移をみると、「サッカー」は平成13年以降ほぼ横ばいとなっています。一方、「野球」では低下傾向となっており、平成8年には「サッカー」が「野球」に比べ6.4ポイント下回っていましたが、平成28年では1.2ポイントまで差が縮小しています。

(図3)

図3 「サッカー」、野球」の行動者率の推移（平成8年～28年）



※「サッカー」に関する主なできごと

Jリーグ開幕（平成5年）、日本・韓国で2002FIFAワールドカップ開催（平成14年）、日本女子代表が2011FIFA女子ワールドカップで優勝（平成23年）、日本女子代表がロンドンオリンピックで銀メダル（平成24年）

3 地域別にみても

行動者率ベスト3は神奈川県、千葉県、静岡県。関東及び東海で高い傾向

「サッカー」の行動者率を都道府県別にみると、神奈川県が8.0%と最も高く、次いで千葉県が7.4%、静岡県が6.8%などとなっており、関東及び東海での行動者率が高い傾向となっています。（図4、表2）

図4 都道府県別「サッカー」の行動者率（平成28年）

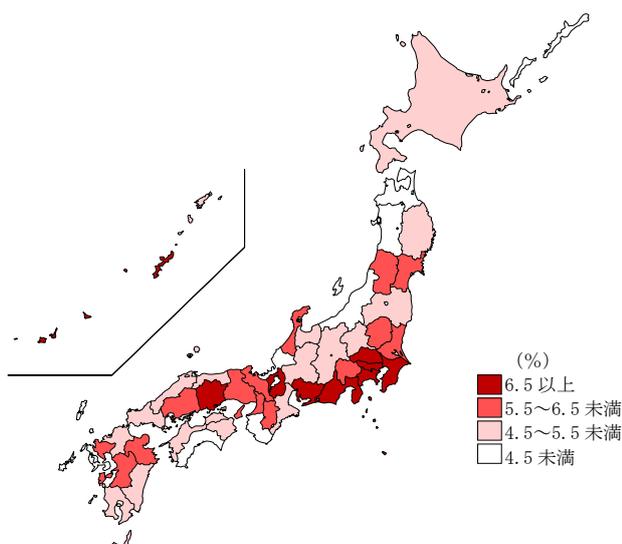


表2 都道府県別「サッカー」の行動者率（平成28年）

—上位10都道府県—
(%)

順位	都道府県	総数 (%)
1	神奈川県	8.0
2	千葉県	7.4
3	静岡県	6.8
4	埼玉県	6.7
4	東京都	6.7
4	愛知県	6.7
4	滋賀県	6.7
8	岡山県	6.5
8	沖縄県	6.5
10	栃木県	6.2

【問合せ先】総務省 統計局 統計調査部 国勢統計課 労働力人口統計室 審査発表第三係

TEL : 03-5273-1163 (直通)

Eメール : l-shinsa3@soumu.go.jp

ホームページ : <https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.html>